

より快適で、健康で、地球上にやさしい暮らしのために

省エネルギーへの取り組みを強化していくためにも、住宅・建築物の省エネ化を推し進める必要があります

省エネであり、快適であること。 こうした住宅が、今後価値ある住宅となっていくでしょう

■省エネへの対応が一層求められるよう

現在、わが国は地球規模の課題である地球温暖化防止対策において、2020年までの温室効果ガスの削減目標を「1990年比で25%」と条件付きで国際的に公約しています。この公約を実現するために、省エネルギーの一層の取り組みや対応は、住宅・建築物の高断熱、高気密等の建築技術及び設備機器の効率化を推し進める必要があります。

日本全国でみた場合、家庭で消費されるエネルギーは給湯が一番多く30%を占めています。次に暖房が22%、厨房が9%となっています。冷房は意外に少なく2%となっています。個々の機器については、近年省エネ性はかなり高くなっています。その中にあって、暖冷房エネルギーについては、機器のみならず、その機器を使用する箱である住宅の暖冷房負荷低減が重要な課題となっています。1980年、省エネ法の使用の合理化に関する法律(省エネ法)が施工されました。その後何度も改正を続け、2010年4月以降は、

建築物、住宅にかかわらず300m²以上の建物は、省エネ計画の提出が義務付けられました。今後は、対象範囲が拡大され規模の大小にかかわらず省エネ基準の遵守が求められる流れとなっています。近い将来、すべての住宅が高い省エネを実現するように法律も整備されることになります。

■これから価値ある住宅とは：

また、省エネであり快適であることが求められる時代でもあります。建物、設備、そして暮らし方の工夫が整って、快適で、健康で、地球上にやさしい住宅がこれから価値のある住宅となってきます。

【夏に涼しく暮らす】

断熱、気密の高い住宅では外の熱が中に入りにくい訳ですから、窓から日射熱を入れてしまふと、室内に熱がこもつてしまします。そこで、夏は窓からの日射を遮蔽します。日射を遮蔽するためには、窓の内側よりも外側で遮蔽したほうが効果的です。すだれやよしずなどを窓の外側

に設置したり、オーニングや外付けブラインドを活用したりすると効果的です。また、樹木は光や熱をうまく調整してくれます。落葉樹は、夏は生い茂り日射を遮り、冬は葉を落とし日当たりを良くしてくれます。樹木の特性を理解し、効果的に配置します。朝顔やヘチマなどのツタ性の植物で日陰をつくり、日射を遮ることも可能です。また、庭の芝生などは地面からの照り返しによる熱の侵入を軽減してくれます。また、地域によっては、日中の夏の気温が高くとも、夜間の気温はかなり下がるところがあります。このような地域では、夜間の冷気を積極的に取り入れ、建物全体を冷やすことが重要です。夜間は窓を開け、家全体を通風換気により冷やすように心掛けます。

【冬に暖かく暮らす】

省エネがしっかりとした住宅では、その断熱性能から、日中は窓から日射を取り込むだけでも十分に暖かく生活することができます。冬は太陽の角度が低いため多くの日射を熱エネルギーに変えること

最後に、快適な住まいを実現するため、住宅性能表示における新築住宅に求められる10項目を記しますので参考にして下さい。

- 構造の安定に関すること
- 火災時の安全に関すること
- 劣化の軽減に関すること
- 維持管理・更新への配慮に関すること
- 温熱環境に関すること
- 空気環境に関すること
- 光・視環境に関すること
- 音環境に関すること
- 高齢者等への配慮に関すること
- 防犯に関すること

(参考資料：財團法人建築環境・省エネルギー機構)

ができます。特に南面の大きな窓は日中有効です。また、湿度調整を心掛けます。省エネ住宅は冬場、室内が乾燥気味になります。肌が乾燥したり、喉を痛めたり、風邪をひいたりしやすくなる傾向があります。肌が乾燥したり、喉を痛みたり、風邪をひいたりしやすくなるので注意が必要です。また、部屋はあまり温めすぎないように注意します。一般的に冬は居室の気温を18°C~23°C程度とするのが目安です。乾燥対策として、観葉植物や水槽などを置くと効果的です。

啓蟄も過ぎ春らしさが増し、春分になるとすっかり春の風を感じます。七十二侯では、雀始巣「雀が巣を構え始めり、桜始開「桜の花が咲き始める」、雷乃发声「遠くで雷の音が始める」と、物事が動き始め、生命や自然に活力を感じる季節に入ります。今年度は様々な事があり、混乱が続いた年度になつた気がします。来年度は前向きな活力のある年度になってほしいものです。

2011年3月発行
発行：前田由紀夫
編集：(株)パビルス
株式会社円昭HP
<http://www.enshow.com>

3

2011 March

社会問題・環境問題
に目を向けよう!



知識の泉

今号のテーマ “環境省エコハウスモデル事業”



エコハウスとは

地域の気候風土や敷地の条件、住まい方に応じて自然エネルギーが最大限に活かされること、さらに身近に手に入る地域の材料を使うなど、環境に負担をかけない方法で建てられることがエコハウスの基本となります。環境省エコハウスモデル事業では、「環境基本性能の確保」「自然・再生可能エネルギー活用」「エコライフスタイルと住まい方」の3つのテーマを基本的な考え方とした上で、地域の特性を十分に活かした家づくりを目指しています。

①環境基本性能の確保

- 1) 断熱 2) 気密 3) 日射遮蔽
- 4) 日射導入 5) 蓄熱 6) 通風
- 7) 換気 8) 自然素材

といったことが十分に理解され、実践されていることが基本になります。

住まいの基本性能を確保することで、住まいに必要なエネルギーを最小限に抑えることができ、かつ快適な住宅となります。

②自然・再生可能エネルギー活用

環境基本性能を確保した上で、必要なエネルギーは自然エネルギーを最大限利用し、

なるべく化石燃料に頼らない生活ができることがエコハウスには求められます。

地域の特徴をよく読み取り、太陽光、太陽熱、風、地中熱、水、バイオマス、温度差を上手に生かす技術や工夫が大切です。

③エコライフスタイルと住まい方

現在人口は減少の傾向にありますが、その反面世帯数が増え、家庭からのエネルギー消費量が増加しています。集まって住むための新しい仕組みづくりや、農地付き住宅のような新しいライフスタイルの提案が住宅を考える上で必要です。

日除けのために草木を植えたり、暑い時は窓を開ける、寒い時は一枚着るなど、住まい手の意識や行動も大切です。

④地域らしさ

エコハウスがそれぞれの地域で永く受け入れられる、魅力ある住宅であるためには、地域の気候風土、文化に根ざした地域らしい住宅であることが大切です。

その地域らしさは、地域の気候風土、文化などにより長い間培われてきた地域資源でもあります。周辺環境、材料、工法、デザインなど、地域の特色を生かした住宅である

ことがエコハウスには求められます。

【モデル事業の背景】

地球温暖化を防止するためには、世界全体で、CO₂の排出量を中長期的に削減していくことが必要です。平成20年7月の北海道洞爺湖サミットでは、2050年までに少なくとも50%削減を達成するという目標が共有されました。また、我が国でも、2050年までに60～80%のCO₂排出削減を目指す「低炭素社会づくり行動計画」が平成20年7月29日に閣議決定されるなど、CO₂排出量の少ない低炭素社会の実現に向けた動きが本格化しています。

しかし、日本の家庭部門からのCO₂排出量を見てみると、1990年度に比べて、2007年度には4割以上も増加しています。これは、家電保有台数の増加などによって、家庭でのエネルギー消費量が増加していることが原因です。家庭からのCO₂排出量を抑えるためには、住宅建設、住まい方、改修、建替えのライフサイクル全体において、省エネで環境負荷が少なく、かつ快適な暮らしを実現するエコハウスを全国的に普及していくなければなりません。

コ・ラ・ム 斜線制限

建築物の各部分の高さに関する制限をいいます。通風、採光等を確保し、良好な環境を保つことを目的とした制限で、建築物を横から見たとき、空間を斜線で切り取ったように制限されることから斜線制限と呼びます。斜線制限には、道路高さ制限、隣地高さ制限、北側高さ制限、日影規制があります。1) 道路高さ制限は、前面道路の反対側境界線を起点とする一定勾配の斜線の範囲内に、2) 隣地高さ制限は、隣地境界線から一定以上の高さを起点とする一定勾配の斜線の範囲内に、3) 北側高さ制限は、北側隣地(道路)境界線上の一定の高さを起点とする一定勾配の斜線の範囲内に、4) 日影規制は、敷地境界から一定の距離を設定してそのラインを越えて一定以上の日影を生じさせないように、それぞれ建築物の高さを収めなければならないとされています。制限される高さの具体的な算出方法は、用途地域の指定などの都市計画の状態等によって異なります。

お勧めの一冊 ハーバードの 「世界を動かす授業」

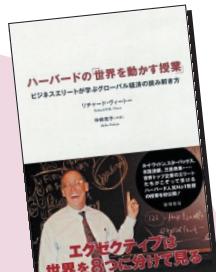
著者:リチャード・ヴィートー 仲條亮子

出版社:徳間書店

価格:1,785円

世界のトップ企業のビジネスエリートがこぞって受ける

ハーバード人気教授の授業です。教授の世界経済の見方は、それぞれの国は発展の軌道を持つと考え、大きく8つの軌道に区分しています。いまや世界経済の中心とも言えるアジアの高度成長。債務危機に苦しむラテンアメリカ、アフリカのルネッサンス、イスラム諸国の台頭、ロシアと東欧のポストソビエトの構築、欧州統合の試み、巨大な借金に苦しむ超大国アメリカと日本。そして地球規模の環境問題。本書ではこの軌道区分をさらに発展させ、新たな切り口で世界の読み解き方を示していく一冊です。



チャレンジ25キャンペーン <http://www.challenge25.go.jp/>

株式会社円昭のスタッフは6つのチャレンジを実行します。

Challenge1
エコな生活スタイルを選択しよう
Challenge2
省エネ製品を選択しよう
Challenge3
自然を利用したエネルギーを選択しよう

Challenge4
ビル・住宅のエコ化を選択しよう
Challenge5
CO₂削減につながる取り組みを応援しよう
Challenge6
地域で取り組む温暖化防止活動に参加しよう

株式会社 円 昭

〒466-0031
名古屋市昭和区紅梅町3-3
TEL: 052-841-2701
FAX: 052-841-4301
mail@enshow.com
<http://www.enshow.com>